



教育目標「志をもち鍛える たくましい生徒」



森町立泉陽中学校だより

令和元年7月18日発行

スローガン「靴を揃え 背筋を伸ばし 返事はハイ」

令和元年7月1日 朝礼講話

校長 寺田敦朗

7月に入りました。2019年も半分終わったということですね。1学期も残り3週間と少しです。暑さに負けず、残りの期間を頑張っていきましょう。

さて、先週の金曜日、陸上の日本選手権男子100M決勝で、9秒台の記録を持つ日本人選手二人が対決するという素晴らしいレースを見ることができました。結果はサニブラウン選手が桐生選手を抑えて優勝し見事世界選手権の代表権を獲得したわけですが、優勝後のインタビューでは自分の記録ではまだまだ世界に通用しないと、謙虚な姿勢で話をしていました。



皆さんの周りでもそうですが、この泉陽中で一番であったとしても、もっと広い世界に出て行けばまだまだだということはたくさんあります。今自分がいる狭い世界の中で、少しばかり周りの人に勝っていたからといって、もっと広い世界で考えてみればそんなことは本当にたいしたことではないのです。少しばかり身近な人に勝っているからと言って、それを鼻にかけたり自慢したり、自分より劣る人を馬鹿にしたりなどといった行為は、まさに「井の中の蛙大海を知らず」、愚の骨頂と言わねばなりません。自分よりも走るのが遅いとか泳ぐのが遅いとか、野球が下手だとか言って、相手を馬鹿にするような愚かな人は皆さんの中にはいませんよね？

ギリシャの哲学者、ソクラテスの言葉に「無知の知」というものがあります。これは、「他人の無知を指摘することは簡単であるが、言うまでもなく人間は世界のすべてを知ることはできない。ギリシアの哲学者ソクラテスは当時、知患者と評判の人物との対話を通して、自分の知識が完全ではないことに気がついている、言い換えれば無知であることを知っている点において、知患者と自認する相手よりわずかに優れていると考えた。」という故事から生まれた言葉です。

自分はまだまだ不完全だ、まだまだ未熟である、と自分の「無知」を知っている謙虚な人間が本当の知患者であるということです。

勉強でも、スポーツでも、広い世界の中には自分より優れた人はたくさんいます。現状の自分の力に満足してしまうのではなく、ましてやさやかな勝利や優劣に一喜一憂したり、自分より劣る者を馬鹿にしたりするのではなく、自らの「無知」を知って不断の努力を怠らない…そんな人間になりたいものです。「無知の知」、ぜひ覚えておいてくださいね。

【裏面へ続く】